

発生順

No	災害発生日	管区	都道府県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概況	
					死	重		軽						
						>4w	4w> 2w							
1	1/8	東北	秋田	石油・天然ガス					-	-	鉱害	油の排出	1月8日(日)朝、河川への油流出の連絡を受け、鉱山職員が現地を確認したところ、 原油及び天然ガスを送っているフローラインの埋設箇所から油が漏えいし、道路側溝に流入 していた。直ちに坑井を停止させた後、下流側の調査を行ったところ、油は漏えい箇所から800m下流の河川まで流れていたため、 オイルマット等による油の回収作業 を行った。漏えい箇所は、深さ1.2mに埋設されていた4インチエルボの溶接線付近に2mm程度の穴が2箇所確認されたため、応急対策として、同エルボ部にバンド補修を行った。	
2	1/20	中部	岐阜	鉛・亜鉛・石灰石	1				請負	33	危害	外・転倒	罹災者は、アスファルト道路の 坂道(勾配約10°) を下る途中に 左足が凍結面に乗って滑り、右足で踏ん張ったが耐えきれず、右足の上に尻餅をついて転倒 した。道路は凍結防止のため散水していたが、流水量の少ない箇所が凍結していた。罹災者は滑りにくい保安ゴム長靴を履いていたが、保安日誌を右手に持って歩いていた。	
3	1/25	関東	埼玉	石灰石					-	-	危害	内・火災	ミニパワーショベルを別の工事箇所へ移動させていたところ、 エンジンのオイルシールから漏れ、断熱材に染みこんだエンジンオイルが、マフラーの亀裂から漏れた高温の排気により、加熱され、燃焼現象により白煙が発生 した。当該重機の運転手と付近で作業を行っていた作業員の2名が、直ぐに付近の消火器により消火を行い、1分程度で鎮火した。当該重機の外観上は、燃えた痕跡は確認できないが、エンジンルーム内のカバーの一部に燃焼状態が確認された。	
4	2/2	那覇	沖縄	石灰石					-	-	危害	外・発破火薬類	山頂部のベンチ端縁近傍にて 発破をかけた際、端縁下部から岩盤が崩落 。崩落した岩盤は、落石受けに落下したものの、一部がそこを乗り越えてさらに落下し、鉄製の落石防護壁をも破壊し、崩落箇所から水平距離で約140m、高低差約80mの位置にある公民館脇のブロック塀を突き破って止まった。公民館の建物には損傷はなかったが、ブロック塀に配管していた公民館の水道管が破損した。落石の規模は、直径約4m、厚さ約2m、推定40t。	
5	2/4	中国	岡山	石灰石	1				直轄	24	危害	外・コンベア	タンカル原料搬送のベルトコンベア(以下、「BC」)が、原料が詰まったことによる過負荷により停止したため、原料掻き出し作業を実施。掻き出し作業が終わったため、操作室へ作業が終了した旨連絡した後、罹災者は、ベルトが蛇行していないか確認するため、乾燥原料タンク横にあるBC起動スイッチを押してBCを起動させ、BCテール部近くへ移動。その際、 土壌にあってあった土塵につまずき転倒してBC構りベルトに左手をつき、その左手がテール部に巻き込まれて罹災 。	
6	2/7	中国	山口	石灰石	1				直轄	46	危害	外・機械	粉碎工場(炭酸カルシウム製造設備)及び焼成炉の運転管理業務を担当していた罹災者は、製造する製品の品目切り替え準備のため製造ライン関係施設の点検を行った。また、点検に併せて、ダストの給鉱ルートのうち、ロータリーバルブ下のシュート内部の清掃も行った。その際、 シュート上部にあるロータリーバルブ付近まで手を入れ過ぎたため、回転中のローターに指先が触れてしまい、罹災 。	
7	2/13	中国	広島	石灰石	1				直轄	58	危害	外・転倒	罹災者は、休憩所で安全靴、保安帽を着用した後、鉱山道路を同僚1名と並んで工場(炭酸カルシウム製造)に向かって歩いていたが、鉱山道路の水平なところから坂道を5m位下がったところで、前夜の降雪による 雪のわたちの凍結した部分に右足をとられ転倒 し、罹災。	
8	2/13	北海道	北海道	石炭					1	直轄	47	危害	内・車両系自動車	上部右下層4号SD風坑のベルトコンベア設置箇所の下盤打ち作業のために作業員Aを先山として他2名が配番された。当該風坑775m箇所において、作業員Aが電動下盤打ち機(カタビラ)を操作し、吊架していたベルトコンベア下側のズリの積み込み作業のため、下盤打ち機を前進させズリをバケットに積み込みながらバケットを持ち上げようとしたところ、バケットのツメが側壁の鋼柱に引っかかりそのまま操作を継続していたため、下盤打ち機の右カタビラ前側が下盤をえぐり、 下盤打ち機本体が傾き横転 し始めた。作業員Aは下盤打ち機の運転席から逃げた際、吊架していたベルトコンベアのフレームの脚と下盤打ち機との間に右腰を挟まれ罹災。
9	2/13	中部	岐阜	鉛・亜鉛・石灰石					1	直轄	67	危害	内・取器	罹災者及び共同作業者は、1.0m~1.7mの高さに3m前後の間隔で坑内の側壁に固定された4本のアンカーの上に乗せられたポリエチレン配管(直径6インチ 長さ10m 重量38kg)を撤去するため、配管を坑道の側溝に落とすことにした。共同作業者は、合図をして配管を下に落としたが、罹災者が配管を落とすのが遅れ、 配管がアンカー上で大きく跳ね落ち、配管先端金具部が左前腕に当たり、罹災 。
10	2/27	関東	新潟	石油・天然ガス					-	-	鉱害	油の排出	一般人から消防署に、川に油が流れている旨連絡があったため、消防から新潟県経由で関東東北産業保安監督部に通報。 原油は20~30分間隔で噴出し、坑口の周囲10m×20mの範囲に広が り、一部が側溝を伝って川に油が流入した。坑口装置が腐食し、バルブ操作が不能となっていたため、警察から大手の鉱山会社に対応を要請した(鉱業権者も了解済み)。当該鉱山会社が 井戸回りに吸着マットを敷いて、応急の漏洩防止対策 を行った。その後、鉱業権者が応急工事及び廃坑工事までの間の応急措置等を発注し、12月末現在も吸着マット回収等による応急対策が継続中。	
11	3/15	中部	岐阜	鉛・亜鉛・石灰石					1	直轄	45	危害	内・落下倒壊物	罹災者は、坑道開削作業に従事していたが、開削した坑道岩盤にコンクリート吹付けをするための準備作業を行っていたところ、前日に 天盤に吹付けたコンクリートの一部が割れ、ヘルメットを着用した頭部に落下し、罹災 。
12	3/16	中国	岡山	石灰石	1				請負	39	危害	外・墜落	罹災者は、同僚2名と一緒に、停止中のベルトコンベア脇の落鉱処理及びスカートゴムの交換を実施していた。この作業現場は、エキスバンドメタル製歩廊の下にあり、歩廊にある資材搬入・侵入口(480mm×650mm)から約1.5m下の位置であった。終業時刻近くになったため、罹災者は一旦、歩廊に上がり、近くの操作室から内線電話で翌日の作業段取り等を行った後、歩廊上から同僚2名に作業終了の声掛けをした。その際、翌日の作業段取りについて考え込んでいたため、 資材搬入・侵入口を開けていたことを忘れて墜落 し、その瞬間に左手小指を歩廊に強打、右足は昇降用梯子の丸鋼に接触して捻り、罹災。	
13	3/23	四国	愛媛	金、銀					-	-	鉱害	坑廃水	製錬所の内港3号排水口のpH監視装置がpHの管理値(pH7~8.5)異常を検知したため、自動で当該水門が閉止し、製錬設備等も同時に自動停止した。しかしながら硫酸設備に供給している海水供給用ポンプの停止措置が遅れ、ポンプ停止まで海水が供給され続けた。このため、 排水路内での廃水量が徐々に増加し、水門をオーバーフローして廃水を海域に排出 させた。事業者は、直ちにポンプアップ等で内港3号排水路内に滞留している廃水の回収作業を実施したが、水門の密閉性不十分により、滞留水を内港3号水門から、推定で約13m漏出させた。事業者が滞留水を分析した結果、排水基準を超えるpH及び重金属が検出された。	
14	4/7	東北	岩手	けい石	1				直轄	63	危害	外・取器	運送会社のトラック(ウイングボディタイプ)から、運送会社運転手と作業員Aと罹災者の3名で自走式ふるい機の交換用金網(1,760mm×1,510mm、90kg×2枚)の荷下ろし作業を実施中、トラック荷台の右後方のアオリに2枚一緒に立ててラッシングベルトで固定されていた金網が、罹災者がアオリの固定金具を外した際、しばらくしてから突然、 アオリとともに金網が倒れ、金網が罹災者に当たり罹災 。	
15	4/17	中国	岡山	ろう石					1	直轄	43	危害	外・取器	罹災者は、鉱石ビットから選鉱場へ鉱石をダンプトラック(11t)で運搬し始めてすぐ、トラック後部のあおりのフック部に鉱石が詰まり、あおりが完全に閉まっていなかったため、鉱石の一部があおりの隙間から落ち、鉱石ビット前土場に散乱しているのを発見した。罹災者はトラックを降りて、スコップで散乱した鉱石を集めようとして、 15cm大の鉱石に誤って右足を踏んだ時に足首を捻り、罹災 。

No	災害発生日	管区	都道府県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概況
					死	重		軽					
						>4w	4w>2w						
16	4/17		鳥取	銅					—	—	鉱害	坑廃水	<p>鉱山現地管理人から鉱山担当者へ、「斜面から赤水が流出し、窪地に貯まった後、河川に流下しているのを発見した」旨の連絡があった。現地管理人が流出水のpHを測定したところ、pH=3.5であったが、流出箇所から約100m下流の河川では、pH=7.1であった。</p> <p>連絡を受けた鉱山担当者は、既設処理場に導水し処理を行うよう現地管理人に指示し、翌日、窪地に貯水した低pH水を既設導水路に合流させ、処理を開始。</p> <p>監督部が旧保安図を確認したところ、流出箇所付近に閉そく済みの旧坑があることが判明したため、4月19日に現地確認を実施。斜面下部においてコンクリートブロック状の構造物の隙間から無色透明の水が流出しており、流出箇所及び窪地の底が赤茶色に沈着していること、流出水のpH=3.95と排水基準(5.8~8.6)を超過していることを確認。流出水導水処理後の沈殿池排水口ではpH=6.92であり、排水基準を満足。</p>
17	4/25	関東	埼玉	けい石					—	—	危害	外・火災	<p>請負業者作業員(常時、修理等の作業実施)2名で砕鉱場乾燥サイロの解体作業中、当該施設の積込口付近にある底(ひし)の取付け部に錆び付きが酷く、固着したボルトがあったため、ガス溶接機を用いてボルトを溶断していた。溶断により赤く熱せられたボルトのヘッド部が地面に落下した際、周囲の枯れ草が炎上、さらに、付近の雑木林に延焼。当時風が強く吹いていたことから、消火器で消火することができず、消防により消火が行われ、鎮火。火災は、鉱山内林地の法面(幅約10m×高さ約30m、面積約300㎡)に及んだ。</p>
18	4/26	中国	山口	石灰石			1		請負	37	危害	外・コンベア	<p>罹災者は、ベルトコンベアテールプリー部において、テールプリー部の安全柵外側に溜まったダストをスコップで取り除く清掃作業を実施中、安全柵を開いて、安全柵内に足を踏み入れようとした際、フレームに躓き、バランスを崩し、左手をテールプリーについたため、シュートに設置してあるスカートゴムとテールプリーの間に左腕が肘まで巻き込まれ、罹災。</p>
19	4/27	近畿	京都	けい石				1	直轄	64	危害	外・墜落	<p>罹災者は、混練作業終了後、サンドヒーター燃焼筒内のカーボン除去作業を行った。その際、除去したカーボンがサンドヒーター内の温度計上部の網に載ったため、サンドヒーター排風ダクトに足を掛け、木製の棒(長さ2.15m、太さ3cmの角棒)を使用してカーボンを網から落とそうとした。ところが、回転バケットの位置が悪く、除去が困難だったため、持っていた棒でバケットを少しずらそうと、バケットに棒を噛ませ動かそうとした瞬間、噛ませた棒が外れ、バランスを崩しそのまま後方約1m下の床へ腰から墜落し罹災。</p>
20	4/29	九州	福岡	石灰石			1		直轄	44	危害	外・車両系自動車	<p>罹災者は、2-B鉱床95mLの旧原石運搬道路(罹災箇所)の道路表面に敷き込まれている原石ズリ(敷き込み厚さ4m)を回収するため、他の場所に駐車されていたバックホーを運転し、作業現場(旧原石運搬道路)へ移動させた。旧原石運搬道路は下部レベルの剥土岩処理の進捗により狭くなっていったため、進入禁止措置の土盛が設置されていたが、罹災者は土盛を除去してバックホーを進入させた。履帯が法面に平行になるように停車させて作業を開始し、1回目のダンプトラックへの積み込みが完了した後、2回目の積み込みのため右旋回を行っていたところ、バックホーが停止していた法面に倒れ、約9m下のベンチに転落・横転し罹災。</p>
21	5/1	中部	愛知	けい石				1	直轄	52	危害	外・墜落	<p>罹災者は、コーンクラッシャー(粉砕器)内のパウルライナー(固定歯)の偏摩耗を防止するため、設備を停止したうえでパウルライナーを定期的に3分の1回転させる作業を実施。</p> <p>罹災者がパウルライナーと上部フレームを繋ぐ治具を外したが、パウルライナーは動かかなかったため、鉄製のバールをホッパーとパウルライナーの隙間に差し込もうと考え、コーンクラッシャー上部フレーム(高さ76cm×幅14cm)に右足をかけてフレーム上に登ろうとした際、右足が滑り転倒し、仰向けに墜落して左手をモーターカバー、右肘をフレームに当て罹災。</p>
22	5/2	関東	栃木	けい石			1		直轄	47	危害	外・墜落	<p>排出ベルトコンベアの駆動用モータのチェーン張り調整を行うため、駆動用モータのスライド作業を罹災者及び作業員Aの2名がベルトコンベアのベルト上に乗る、ベルトコンベア上流側に罹災者、下流側に作業員Aの配置で実施。</p> <p>作業員Aは、固定ボルト下側のボルトヘッドをメガネレンチで押さえ、罹災者が固定ボルトのナットをラチェットレンチに鉄パイプ(φ3cm×長さ37cm)を接続した状態で緩めようとし、ラチェットレンチを手前側に引いたところ、何らかのはずみで後方に転倒し、約3.6m下の歩廊へ墜落し、罹災。</p>
23	5/12	関東	栃木	石灰石					—	—	危害	外・火災	<p>油圧パワーショベル(バケット容量6.5m³)で、開発切羽の剥土積み込み作業をしていた運転手は、キャビンで運転中、背中側に熱さを感じ、後方を振り返るとエンジン付近から出火していることを確認。運転手は、直ちにエンジンを切り、無線で消火の応援を呼び、消火器7本を使用して消火を試みたが火が衰えないため、消防に通報。消防による消火活動により鎮火。近隣の山林等への延焼なし。人的被害なし。</p>
24	5/17	北海道	北海道	銅					—	—	鉱害	坑廃水	<p>集積場の廃水を処理場に送水する導水管の巡視点検中に、途中の水管橋端部から橋脚法面を経て下を流れる沢に廃水が流出した跡を発見した。確認のため送水ポンプを稼働させたところ、水管橋から廃水の流出を確認したため、直ちにポンプを停止し水管橋上の導水管を点検した結果、導水管(ポリエチレン製、直径150mm、管厚8.5mm)の底部に長さ約30cm、幅約1mmの亀裂があることが判明した。水管橋下に溜まっていた流出水のpHを測定したところ、3.29と排水基準を超過していた(後日、鉄及び亜鉛についても排水基準超過を確認)。</p>
25	6/29	関東	埼玉	石灰石			1		請負	56	危害	外・取器	<p>罹災者及び2名の共同作業員は、焼成炉の駆動用シャフト(直径145mm×長さ3m、重量約360kg)を交換するため、チェーンブロック2台を用いてワイヤーロープ(直径約9mm)をシャフトの2箇所に掛けて吊り、炉外に搬出しようとしていたところ、シャフトが搬出口に引っかかりそうになった。罹災者が、チェーンブロックの掛け替えのため脚立をとろうとしたときに、ワイヤーロープの1本が切れ、シャフトが近くのベルトコンベアの安全柵に当たった後、罹災者の方へ落下したため、シャフトとベルトコンベアカバーとの間に挟まれ罹災。</p>
26	7/22	東北	秋田	金、銀、銅、鉛、亜鉛、硫化物					—	—	その他	風水雪害	<p>本災害発生6日前(7月16日)の降雨(一日当たり152.5mm)に加え、災害当日の降雨(1時間最大降水量(11:00~12:00)が52.0mm、日降水量(7:00~13:00)が113.5mm)により、処理原水である春木沢乙集積場暗渠水(場内水+浸透水)が急激に増加し、春木沢廃水処理所の集水槽から溢流した。</p>
27	7/22	東北	秋田	金、銀、銅、鉛、亜鉛、硫化物					—	—	その他	風水雪害	<p>短時間の集中的な降雨により、沢水(湧水)が急激に増水したため、沢水切替水路から越流し、集積場浸透水等の処理原水を集水している集水槽に大量に流入し処理原水と合流した。これにより、最大処理能力(7.0m³/分)を超えた処理水が坑廃水処理場まで導水されたため、12時50分~13時05分までの15分間、沈殿池排水口からPHが排水基準値を超えた排水が流出した。</p>
28	7/24	近畿	滋賀	石灰石			1		直轄	57	危害	外・墜落	<p>作業員5名で製品貯鉱用のベルトコンベアの撤去中、ベルトコンベアの支柱を基礎から1m付近で溶断し、ワイヤーを使用してベルトコンベアをパワーショベルで吊り上げて地上に降ろした。その後、ワイヤーを移動させるため、作業員4名がベルトコンベアの点検用通路(貯鉱場に向かって右側)に乗って、ワイヤーを移動させる準備をしていたところ、ベルトコンベアが突然横転した。</p> <p>ベルトコンベアの点検用通路に載っていた作業員4名のうち、1名がベルトコンベアの点検用通路(高さ約1.8m)から墜落し、少し長めの安全帯を着けていたため、宙づり状態にならず左手を地面に突き罹災。もう1名の作業員は、ベルトコンベアの通路を移動中であつたため、安全帯を外しており、点検用通路(高さ約2m)から墜落し罹災。</p>
29	8/10	中国	広島	石灰石				1	直轄	39	危害	内・その他	<p>坑内採掘切羽において、作業員3名で、天盤の落石防止用金網の張り替え作業を行っていた。罹災者は、ホイールローダのバケットに装着したゴンドラ内で、もう1名の作業員とともに張り替え作業を行い、残り1名は、ホイールローダの運転をしていた。張り替え作業が完了したので、罹災者が乗っていたゴンドラを地面に下ろし、罹災者がゴンドラから30~35cm下の地面に降りた際に、地面に凹凸があつたため、左足を捻って罹災。</p>
30	8/18	九州	鹿児島	金、けい石	①				—	—	危害	外・車両系自動車	<p>切羽で発生した剥土(捨石)の運搬を請け負った罹災者は、自社の10トンドンプトラックで剥土を運搬していたが、セルモーターが故障してエンジンがかからなくなった。他の10トンドンプトラックで牽引して鉱山道路を移動していたところ、牽引のワイヤーが切れ、牽引されていたダンプトラックが制動不能となり、カーブを曲がりきれずに鉱山道路から約10m下に転落した。転落したダンプトラックの運転手が運転席と天井に挟まれたため、消防レスキュー隊が救出後、ヘリで病院へ搬送した。</p>

No	災害発生日	管区	都道府県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概況	
					死	重		軽						
						>4w	4w>2w							
31	8/25	那覇	沖縄	石灰石		1				直轄	35	危害	外・取器	罹災者は、罹災前日に発生した砕鉱場内のベルトコンベアのモーター駆動部のチェーン切断故障を修理するため、保安管理者と2名で修理作業にあっていた。保安管理者が一時的に作業現場から離れている間、罹災者は、 足場が悪く力が入りづらい状況の中でレンチにてチェーン保護カバーのボルトを外そうとしたが、固く締まっていたため体重をかけた強く回そうとしたところ、工具が滑り保護カバー横のモーターの土台に胸部を打ち付け罹災。
32	9/15	中国	岡山	石灰石		1				直轄	21	危害	外・コンベア	罹災者は、選鉱場の設備起動のため、起動スイッチを操作後、運転状況を確認しながら操作室に戻ろうとしていたところ、 ベルトコンベアテールブリー部のリターンベルト裏側に付着していた砂が気になり、右手(軍手装着)で払おうとしたところ、誤って、テールブリー部に右手を巻き込まれ、罹災。
33	9/15	中部	岐阜	石灰石		1				直轄	37	危害	外・車両系自動車	罹災者は、構内車(ワンボックスバンタイプ、マニュアル車)で採掘現場へ向かうため、運転席に座らず車外から左足でクラッチを踏みキーを回してエンジンをかけた(構内車はクラッチを踏まないでエンジンがかかる構造)。罹災者が クラッチを繋いだところシフトレバーが1速に入っていたため車が急に前進し、車は前方の土盛りに乗りあげ停止したが、罹災者は駐車場の下3mの地面に落下し、罹災。
34	9/17	九州	大分	石灰石						—	—	その他	風水害	台風18号の影響により、鉱山周辺の雨量が増加(全体雨量:9/16 06:00～9/17 19:00 498.5mm、最大降雨強度:9/17 14:00～15:00 113.5mm)。9月18日(月)朝、保安統括者が災害箇所点検をしたところ、 第一貯鉱場の一部が流出し、流れた鉱石が山元選鉱場の上流ベルトコンベアのヘッド部を埋没させているのを確認した。
35	9/21	四国	高知	石灰石						—	—	危害	外・火災	災害当日の朝、穿孔機の始業点検を実施し、異常がないことを確認後、穿孔作業を開始した。抵抗線の厚みを確認するため穿孔を止め、エンジンをアイドル状態とし、穿孔機のキャビンから運転員が降りた後、 突然穿孔機から火柱が上がった。 初期消火をしようとしたが、火勢が強かったために断念し、消防に通報。消防車(4台)による消火活動により鎮火。原因等は現在調査中(今後メーカーによる機体分解調査が実施される予定)。
36	10/1	関東	千葉	石油・天然ガス						—	—	危害	外・火災	坑井のガスリフト用の圧入管を埋設している町道の脇で、付近住民がドラム缶を利用して家のゴミを燃やしていたところ、周辺の路上で火が着き、自力で消火を試みるも消えなかったため、消防へ通報した。現地を確認したところ、消火のため散水した町道の路面上から気泡が出ていたことから、圧入管からのガス漏洩の可能性が高いと判断し、圧入管に送ガスしている基地のコンプレッサーを休止した。再度、現場に戻り確認したところ、気泡が消えていたため、当該圧入管からのガス漏洩と特定。
37	11/6	東北	青森	石灰石		1				直轄	20	危害	外・コンベア	ベルトコンベア(BC)の駆動用チェーンが切れてベルトが止まり、BC周辺に鉱石が散乱してしまつた。作業員A(班長)は電気室にある当該BCの動力電源を切った後、作業員4人と分担して駆動チェーン交換作業と周辺の落鉱除去作業を実施した。Aは作業進捗から、まもなくBCの運転を開始できると判断し、 作業員全員に向かって動力電源を入れたと口頭で伝えて電気室に向かったが、プラント稼働音のため他の作業員にも聞こえていなかった。Aが電気室の動力電源を入れたところ、BCが動き始め、ベルト内側の落鉱を除去していた作業員Bが右腕を巻き込まれ罹災した。 Aは他の作業員がBC運動単独スイッチを停止にし、動力電源を入れてもBCは動かないと思いつ込んでいたが、実際には停止されていなかった。
38	11/10	四国	高知	石灰石				1		直轄	28	危害	外・コンベア	罹災者は、電気室(操作室)から7mmオートサンブラーの水分量値が異常値を示しているのを確認するよう無線連絡を受け、同現場の点検に行き、当該装置の状態を確認するため、自動運転から手動運転に切替え運転させた。その際、 受け皿に投下された鉱物の盛り加減が気になり、修正しようと点検扉の内部に手を入れ、移動している受け皿と整流板との間に右手を挟まれ罹災。
39	11/14	北海道	北海道	石炭		1				直轄	29	危害	内・落盤側壁崩壊	採炭払排気側の風坑袖部において、ドラムカッター切削後の材料上げ作業を実施するため2名が配番された。2人で風坑袖部の鉄柱カッベ延長を行い、自走枠131セット目の先端カッベと延長した鉄柱カッベの上に材料(長さ3.6m×幅0.3m×厚さ0.05m)を入れる作業をしていたところ、 切羽元鋼柱の層部隙間から0.6m×0.4m×0.2m程度(重さ約20kg)の落石があり、袖部で曳き込み作業をしていた作業員の左足甲に当たり罹災。
40	11/19	中部	岐阜	鉛・亜鉛・石灰石			1			直轄	47	危害	外・毒劇物	共同作業者と罹災者は、苛性ソーダ溶液配管の凍結を解消するため配管内に蒸気を送ることにした。罹災者はドレン抜きに蒸気ホース先端を押し当て両手で保持し、離れた場所で合図を受けた共同作業者が蒸気を送ったところ、 配管内の圧力が高まり蒸気ホースを押し当てた箇所から蒸気とともに苛性ソーダが噴き出し両腕と右膝を被液し、罹災。
41	11/20	東北	福島	石灰石						—	—	危害	外・火災	ベルトコンベア(BC)を空運転時(荷のない状態)、ベルトの縦裂きが発生し過負荷により停止した。確認のため BCのカバーを外す作業を行っていたところ、掃りベルトの居付き除去用のV型ベルトクリーナー付近から出火した。 約5分後、鉱山労働者が消火器により消火した(消防の出動なし)。Vベルトクリーナーのゴムが摩擦したことにより、金属部がベルトに直接接触し、この摩擦熱により金属部が高温となり、木の葉等の可燃物と接触し、出火したものと推定。
42	11/22	中国	岡山	ろう石		1				直轄	18	危害	外・車両系自動車	罹災者は、フォークリフトでフレコンバッグ(集じん粉:約1t)をフォークに取り付けたつり下げ器具に吊し、 緩い下り傾斜の運搬路をバックで走行中、急旋回を行ったため車面が横転し、ヘッドガードフレームと地面に右足先を挟まれ、罹災。
43	12/5	関東	栃木	けい石	1					直轄	22	危害	外・車両系自動車	罹災者は同僚と2次スクリーン破損部の補修を行った後、一人でミニローダーを用いてプラントの清掃作業を行っていた。同僚が罹災者の携帯電話に連絡したが応答がなかったため、プラントへ向かったところ、 罹災者がミニローダーのハンドルとベルトコンベア中間部のデンジョンブリーガイドアングルの間に上半身が挟まれているのを発見した。 なお、当該ミニローダーにはキャビン、ヘッドガード及びバックミラーは装備されていない。
44	12/6	関東	埼玉	石灰石				1		直轄	23	危害	外・車両系自動車	罹災者は、屋外ヤードにおいて、フォークリフトを使用し、フレコンバッグ(重量約1t)の移動作業に従事していた。3段積み一番上に積んであるフレコンバッグを移動するため、吊り紐をフォークリフトの左側フォークに掛け後退している際に、 フォークリフトのバランスが崩れ、車体が左側に傾き転倒した。 転倒する際にゆっくり左側へ傾いたため、罹災者は、シートベルトを外し車外へ飛び降り、地面にしゃがみ込んだが、しゃがみ込んだ所にフォークリフトが倒れ、ヘッドガードに左足を挟まれ罹災。
45	12/22	関東	埼玉	石灰石		1				直轄	33	危害	内・飛石転石	罹災者は、石灰沢坑エプロンフィーダー(原石積込設備)から抜き出した鉱石を鉱車へ積み込み、蓄電池式機関車で運搬する作業に従事していた。罹災者は、災害発生箇所のエプロンフィーダー上に鉱石が無くなったことから、エプロンフィーダーを止めて、エプロンフィーダー内部に入り、シュートの閉塞を確認するため、 エプロンフィーダー奥の上部シュートを覗き込んだところ、上部シュート内に重なっていた鉱石(直径50cm位の大きさ)が転がり、罹災者の左足ふくらはぎに当たり、罹災。

No	災害発 生月日	管 区	都道府 県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概 況
					死	重		軽					
						>4w	4w> 2w						
46	12/28	九州	福岡	石灰石	1				直轄	51	危害	外・転倒	罹災者は、砕鉱場内の紙袋詰め作業中に、袋詰め機の紙袋搬送部の紙袋の一部がはずれているのを発見した。これを直すため、ベルトコンベアの上を渡っている足場を通過して設備に近づいたところ、足を穴に捉われて足場から足を踏み外し、そのままバランスを崩して、左上腕を搬送部に強打し罹災。ただし、このときベルトコンベアは停止中であった。
特検件数					合計	1	19	3	8				
					合計改め	1	22		8	総計	31 人		
						-	①	-	-	①	人	り災者数のうち、丸数字は非鉱山労働者	

発生件数		罹災者数	
危害	38 件	直轄	27 人
鉱害	5 件	請負	4 人
その他	3 件	非鉱山労働者	1 人

発生件数(鉱種別)		罹災者平均年齢
石炭	2 件	40.5 歳
金非	18 件	
石灰	23 件	
石油	3 件	

災害種別発生件数(罹災者数)		
運搬装置(運搬その他)	件	(人)
運搬装置(コンベア)	5 件	(5人)
運搬装置(車両系自動車)	7 件	(6人)(①人) ※罹災者のうち丸数字は非鉱山労働者
うち(車両系鉱山機械)	5 件	(5人)
墜落	5 件	(6人)
火災	6 件	(人)
取器	5 件	(5人)
落下倒壊物	1 件	(1人)
工具	件	(人)
飛石転石	1 件	(1人)
落盤側壁崩壊	1 件	(1人)
浮石の落下	件	(人)
転倒	3 件	(3人)
岩盤崩壊	件	(人)
発破火薬類	1 件	(人)
機械	1 件	(1人)
粉じん	件	(人)
しゃく熱溶融物	件	(人)
その他	1 件	(1人)
坑廃水	3 件	-
油排出	2 件	-
鉱 煙	件	-
風水雪害(震災・台風 その他の自然災害)	3 件	-
毒劇物	1 件	(1人)
坑廃水(土壌)	件	-